

消 防 費

・消防費

常備消防費

政策総務課

(1) 乙訓消防組合

乙訓消防組合に対し、分担金を負担した。

320,422,000 円

非常備消防費

政策総務課

(1) 消防団は郷土愛護の精神に基づき、あらゆる災害に対処するため、団長以下一致団結し、防火防災活動を行った。

事業名	実施年月日	参加者数	場所
ポンプ運用強化訓練	R1.5.19、8.4、12.1	36 人	大山崎消防署駐車場
初級団員教養訓練	R1.5.19	38 人	大山崎消防署駐車場
大山崎町水防訓練	R1.6.2	41 人	大山崎町大山崎五畝割地内
普通救命講習	R1.7.7	30 人	大山崎消防署
団本部計画訓練	R1.8.24	24 人	京都府安全協会自動車練習場
京都府防災訓練及び大山崎町防災訓練	R1.9.1	6 人	村田機械㈱総合グラウンド及び長岡京市立長岡第9小学校
幹部教養訓練	R1.10.6	29 人	大山崎消防署駐車場
活性化事業	R1.10.6	22 人	ホテルエミナース京都
秋の火災予防運動に伴う広報パトロール	R1.11.9～14 6日間	延べ35 人	大山崎町管内
京都府消防大会	R1.11.24	24 人	国立京都国際会館
年末特別警戒	R1.12.25～30 6日間	延べ168 人	大山崎町管内(各分団詰所)
大山崎町消防出初式	R2.1.12	53 人	大山崎町体育館
春の火災予防運動に伴う広報パトロール	R2.3.1～6 6日間	延べ35 人	大山崎町管内

(2) 消防団は火災予防にも積極的に取り組むとともに、府立消防学校に団員を派遣し、各種の教育を実施した。

また、研修のため管外へも団員を派遣し、情報収集や見聞を広め、団員の資質向上に努めた。

○京都府立消防学校派遣研修

消防団員専科教育警防科	1日	3人	京都府立消防学校南部防災拠点施設
-------------	----	----	------------------

消防団員幹部教育初級幹部科	1日	3人	京都府立消防学校南部防災拠点施設
---------------	----	----	------------------

消防団員幹部教育指揮幹部科現場指揮課程	1日	3人	京都府立消防学校南部防災拠点施設
---------------------	----	----	------------------

○大山崎町消防団幹部管外視察研修	2日	6人	東京都・千葉県
------------------	----	----	---------

○大山崎町消防団各分団管外視察研修	各2日	48人	和歌山県・福岡県・長崎県
-------------------	-----	-----	--------------

○京都府消防協会乙訓支部管外視察研修	2日	3人	兵庫県
--------------------	----	----	-----

(3) その他

消防団は、毎月自主訓練を行っているほか、消防車両を常時出動可能な状態にしておくため機関点検を行う等、万一の災害に備えている。

消 防 施 設 費

政 策 総 務 課

(1) 水道事業会計負担金

3,648,000 円

消火栓等維持費

公設水利の維持管理費用

消火栓 245箇所

防火水そう 59箇所

}

304箇所×1,000円×12ヶ月

水 防 費

政 策 総 務 課

(1) 水防出動に備え、水防活動に必要な資器材を購入した。

水防活動用資材(土のう袋、ブルーシート、コンパネ、訓練用砂他)

191,437 円

(2) 桂川・小畑川水防事務組合

京都市・長岡京市・大山崎町で構成する水防事務組合の負担金

314,000 円

水防事務組合水防訓練 訓練日:R1.5.12 場所:淀川右岸淀大橋下流河川敷

〈資料1〉 火災概要(過去3年間)

区分 \ 年別		平成29年	平成30年	令和元年	昨年との比較増(減▲)
火災件数	計	3	4	2	▲2
	建物	1	3	0	▲3
	車両	1	1	1	0
	林野	0	0	0	0
	その他	1	0	1	1
建物焼損床面積(㎡)		0	48	0	▲48
建物焼損表面積(㎡)		1	11	0	▲11
林野焼損面積(a)		0	0	0	0
焼損棟数	全焼	0	1	0	▲1
	半焼	0	0	0	0
	部分焼	1	4	0	▲4
	ぼや	0	2	0	▲2
り災人員		5	22	0	▲22
り災世帯	全損	0	1	0	▲1
	半損	0	0	0	0
	小損	2	11	0	▲11

※大山崎町管内分

(乙訓消防組合統計より)

区分 \ 年別		平成29年	平成30年	令和元年	昨年との比較増(減▲)
死傷者	死者	0	0	0	0
	負傷者	1	2	0	▲2
損害額(千円)		644	9,023	11	▲9,012
主な火災原因	たばこ	0	1	0	▲1
	こんろ	0	0	0	0
	火入れ	0	0	0	0
	たき火	0	0	0	0
	火あそび	0	0	1	1
	こたつ	0	0	0	0
	電気機器	1	0	0	0
	配線器具	0	0	0	0
	放火・放火の疑い	0	0	1	1
	その他	2	3	0	▲3
	不明	0	0	0	0
	計	3	4	2	▲2

※大山崎町管内分

(乙訓消防組合統計より)

〈資料2〉救急活動概要(過去3年間)

区分 \ 年別		平成29年	平成30年	令和元年	昨年との比較増(減▲)
出 動 件 数		1,093	1,169	1,225	56
取 扱 件 数		1,024	1,083	1,095	12
事 故 別	交 通 事 故	122	101	103	2
	急 病	648	731	771	40
	一 般	194	200	195	▲5
	そ の 他	129	137	156	19
救 護 人 員		1,030	1,096	1,104	8

事故別の出動状況をみると急病が771件と最も多く、全体の約 63%を占めた。

(乙訓消防組合統計より)

大山崎消防署が出動した件数で、町外への出動を含む。

〈資料3〉消防団の出動状況(令和元年度中)

区分 種別		計	災 害 出 動				演 習 ・ 訓 練	広 報 活 動	研 修 ・ 会 議	機 関 点 検	特 別 警 戒	そ の 他
			火 災	う ち 林 野	捜 索 活 動	風 水 害 等 の 災 害						
消防団	出 動 回 数	113	0	0	0	0	19	12	21	36	6	19
	出 動 延 人 員	1,182	0	0	0	0	312	71	110	363	132	194

消防団員は、火災、その他の災害による被害を最小限にとどめるため、専門知識の習得、技術の練磨を重ねた。

1. 災害対策(警戒)本部設置状況

各種気象警報等の発表・被害の発生に伴い、災害対策(警戒)本部を計3回設置した。

設 置 日	事 象		避難情報など
令和元年8月15日 (木)	8月15日15時38分 8月16日7時44分	大雨警報(土砂災害)発表 災害警戒本部設置 大雨警報(土砂災害)解除 災害警戒本部閉鎖	
令和元年8月23日 (金)	8月23日18時27分 8月23日23時16分	大雨警報(土砂災害)発表 災害警戒本部設置 大雨警報(土砂災害)解除 災害警戒本部閉鎖	
令和元年10月12日 (土)	10月12日4時50分 10月12日20時21分	暴風警報発表 災害警戒本部設置 暴風警報解除 災害警戒本部閉鎖	

2. 防災パトロール

大山崎町地域防災計画に基づき、出水期を迎えるにあたり、防災関係機関の協力を得て、災害時に危険が予想される箇所の点検を実施し、防災上必要な対策を検討し、万全を期すことを目的に実施した。

○実施日:令和元年5月20日(月) ○参加者数:26名

○パトロール箇所：小倉神社砂防堰堤、山崎聖天(観音寺)、大山崎排水ポンプ場

3. 自主防災組織の支援

- 自主防災組織の活動を支援するため、自主防災活動補助金を支出した。
 - ・自主防災活動補助金:256,368円(計6団体)

4. 防災訓練の実施

町職員の災害対応力を向上させ、住民の自主防災活動を促進することにより、地域の防災力を高めることを目的として、総合防災訓練を実施した。

- 主催:大山崎町防災会議
- 日時:令和元年9月1日(日) 8時00分から
- 場所:第二大山崎小学校
- 想定状況:大山崎町で震度7の地震が発生。
- 参加機関:対象区域自治会・町内会・自主防災組織(住民参加約200名)、町
- 内容:災害対策本部の運営訓練、地域住民の避難行動訓練、防災フェア(防災グッズ展示、マンホールトイレなどの展示)
- 訓練第2部として、長岡京市で実施された京都府総合防災訓練への見学参加を行った。

5. 防災資機材等の整備

備蓄用の飲料水、食料及び非常用毛布を調達、避難所に配備した。

6. 防災啓発の実施

- 出前講座:防災に関する出前講座を計14回実施し、延べ373名の方が受講した。
- 広報:4月号から12回にわたり「広報おおやまぎ」に防災記事を掲載し、住民の防災意識の高揚を図った。
- 防災に関する知識と技能の普及のために、防災伝道師養成講座を2日間に渡り実施し、29名に防災伝道師認定証を交付した。